

心の輪33R



『やさしいうそ』という資料を通して、
「障害や困難に屈しない意志」について考えました！

山形の実家から帰る途中、交通事故に遭い、重傷を負った女優の萩生田千津子（はぎうだ ちづこ）さん。一命は取り留めたものの、首の骨を折り、頸髄損傷による全身麻痺の身となり、「一生寝たきり」という宣告を受けてしまう。現実を受け入れられず、絶望的な気持ちになるが、励ますため、心配させないため、様々な思いで、萩生田さんや周りの人たちは、お互いに『やさしいうそ』をつき続けることになる。そんなある日、小説家の水上勉先生がお見舞いにやってくる。そこで水上先生に言われたことをきっかけに、『語り部』として再び舞台に上がることを決意する。この話の最後に萩生田さんは、「私は今、生きることが大好きです。」と述べている。萩生田さんは、なぜ、ここまで強くあることができたのだろうか？どんな障害や困難にぶつかっても、充実した生き方を送るために大切なものは？

何も不自由なく今は過ごしているけど、もし、不自由な生活になってしまった時は、生きていて楽しいものを見つけていこうと思う。辛いときは辛いと言えるようになろうと思った。

自分は誰からも必要とされていないと考えるのはダメ。誰にでも必要とされることはあるから、それを見つけることが大切だと思った。自分はダメだと考えるのではなく、自分はできると思ったり、常に笑顔で過ごして、明るくポジティブに私は生きていきたいと思いました。

幸せになるためには、やさしいうそをつくことも大切なんだなと思った。体の状態が悪くても、自分ができる限りのことを見つけて、自分が楽しく、明るい人生を送れているなら良いなと思う。幸せに気付かない時が幸せなんだなと思った。



理想通りにいかない現実もある

目標の実現に向けた道のりは決して平坦ではない。
 例えば、
 勉強にしても、スポーツにしても、芸術にしても
 自分なりに努力したつもりでも
 うまくいかないこともある。
 各分野の第一線で活躍する人たちも
 同じように苦い経験や挫折を味わいながら
 それを乗り越えてきた。
 優雅に泳ぐ白鳥は、
 水面下で懸命に水をかいているのだ。

文部科学省資料
 『心のノート』P.18より引用

私は、ポジティブっていいなと思いました。嘘でもいいから、楽しいこと、嬉しいことを考えられるようになったら、幸せになれると思います。ネガティブに、悪いこと、悲しいことを考えて、悲劇のヒロインになったところで、手を差し伸べてもらっても、前に進むことなんてできないんだなあと思いました。大切なことに会って、感謝して生きていこうと思います。

自分の人生の中での生き甲斐というものを、最終的には見つけないと、「生きているのは何のためなのか」という壁にぶつかってしまうと思うので、これから先の人生で見つけていきたいです。また、過去のことを全て忘れるまでは思わないけど、忘れることも大切だと思いました。

どんな時も、楽しさを見つけ、笑顔になれば、もうそれは、自分の幸せだと思う。もし、自分の足が動かなくなったら、ショックが大きいと思う。でも、そこで下を向いては、何も進まないと思うから、前を向いて、ポジティブに生きていたらいいと思う。萩生田千津子さんも、ポジティブに生きていたから、「生きることが大好き」と心から思えたんだと思いました。